

認知症の早期発見・早期受診

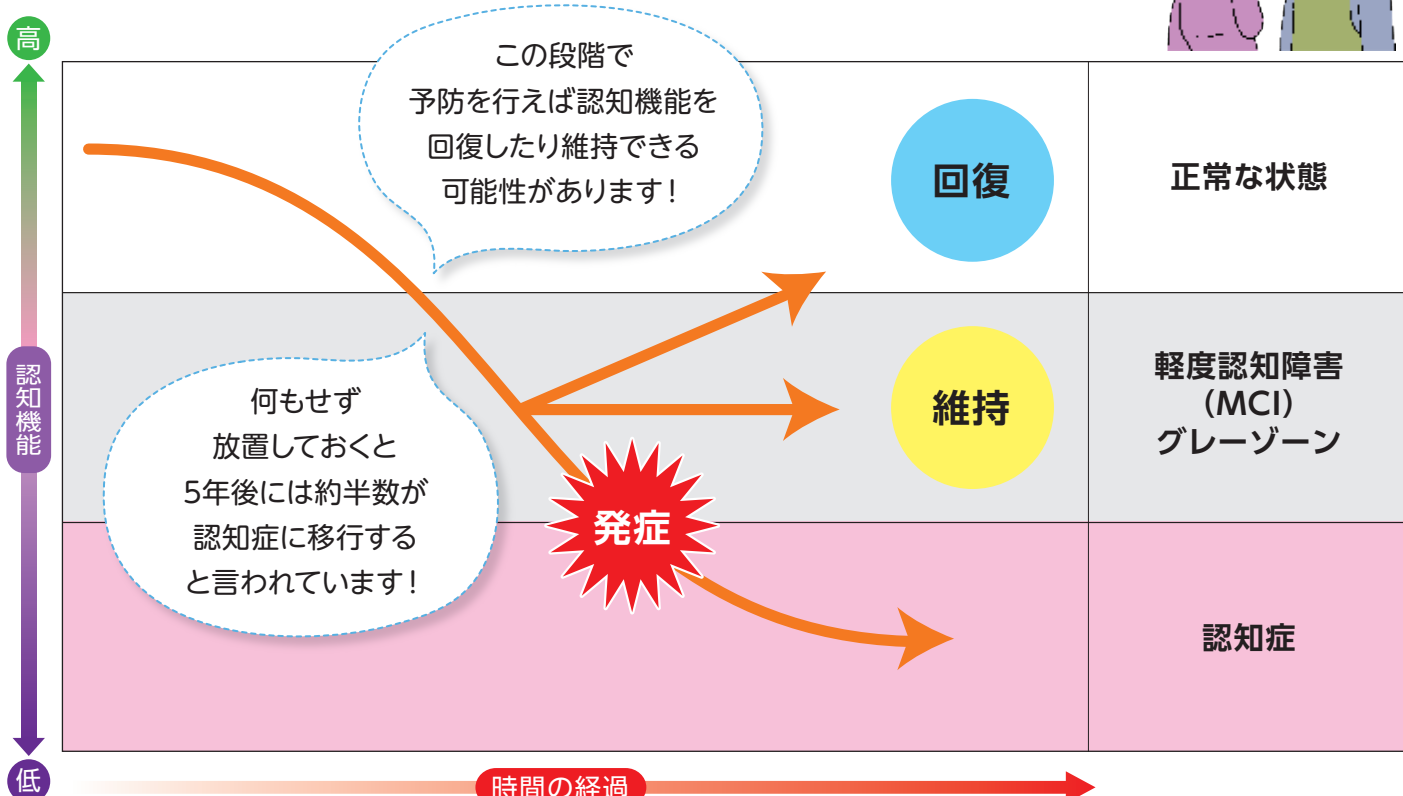


軽度認知障害(MCI)の発見と対処が重要です

認知症はいきなり発症するわけではなく、一歩手前のグレーゾーンがあります。その段階のことを「軽度認知障害(MCI)」といい、物忘れはあるものの日常生活には支障がほぼないのが特徴です。また、物忘れ以外にもなんとなく元気がなく、意欲が低下する様子がみられることもあります。



■認知機能低下のイメージ



若年性認知症とは？

- 若年性認知症とは、64歳以下で発症した認知症の総称であり、病名ではありません。
- 初期症状として気分が落ち込んだり、やる気が出ない、眠れないなど、うつ病や更年期症状と類似する点があります。
- 若年性認知症は、40～50代の働き盛り世代で発症するために、本人だけでなく、家族の生活にも影響が大きく、早期発見、早期治療が重要です。

若年性認知症 についての 専門相談窓口

- 愛媛県若年性認知症支援コーディネーター ☎070-3791-0342
Email/jikoukai@eos.ocn.ne.jp
受付場所／高齢者総合福祉施設 ていれぎ荘（松山市水泥町405番地1）
受付時間／月曜日～金曜日 9時～17時 ※土日・祝日・年末年始を除く
- 全国若年性認知症コールセンター ☎0800-100-2707（通話無料）
受付時間／月曜日～土曜日 10時～15時 ※祝日・年末年始を除く
（水曜日のみ 10時～19時）

物忘れチェックリスト



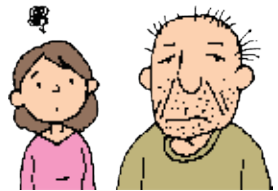
下記の「物忘れチェックリスト」で認知症を疑うような行動等の変化に気づいたら、「気のせいかな」「年だから仕方ない」と自分で判断せず、早めに専門医療機関への受診をお勧めします。

☐

直前にしたことや話したことを忘れてしまうようになった。

☐

おしゃれや清潔感など身だしなみに気を使わなくなった。

☐

同じことを何度も言ったり、聞いたり、したりするようになった。

☐

今まで好きだった趣味などへの興味や関心がなくなった。

☐

置き忘れやしまい忘れが増えて、いつも探しものをしている。

☐

外出したり、人と会ったりするのをおっくうがり、嫌がるようになった。

☐

知っているはずの人やものの名前が出てこなくなった。

☐

今までできていた家事、計算、運転などのミスが多くなった。

☐

つじつまの合わない作り話をするようになった。

☐

日付や時間を間違えたり、慣れた道で迷ったりするようになった。

☐

以前にくらべ、ささいなことで怒りっぽくなった。

☐

財布が見当たらないときなど、盗まれたと人を疑うようになった。



認知症の早期発見・早期受診



早期受診はメリットが大きい

- 発症の原因によっては、早い段階で治療を始めれば回復が期待できる場合もあります。
- 早期の対応で、その後の症状を和らげたり、進行を遅らせたりすることが期待できます。
- 今後の生活の備えやもしもの時の話し合いを余裕をもって進められます。

①まずかかりつけ医に相談

かかりつけ医には、本人や家族を日頃から知っている強みがあります。必要に応じて専門医療機関を紹介してくれます。

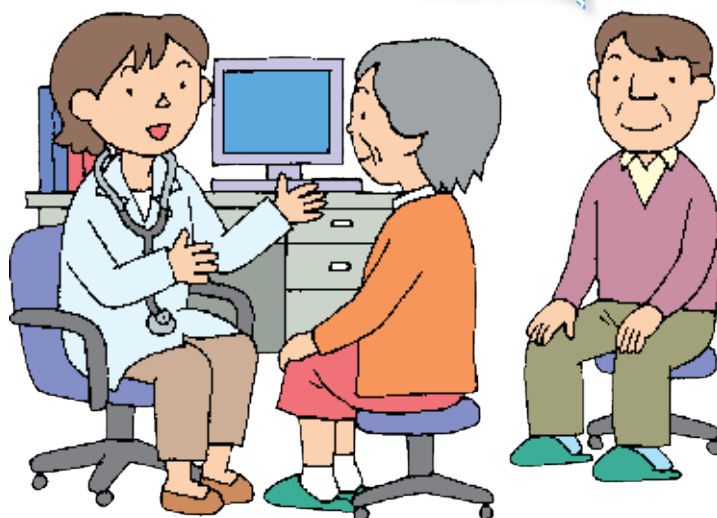
②気になることをまとめておく

診断に欠かせないのが、本人や家族からの情報です。本人の話はもちろん、家族からの視点、それぞれの話の食い違いなども重要な手がかりになります。医師に伝えたい内容をまとめておくとスムーズです。

事前に整理しておくポイント

- 性格や習慣などにどんな変化がいつ頃から現れたか
- 具体的に困っている症状は何か
- 日や時間帯によって変化があるか
- 既往歴(高血圧や糖尿病など)があるか
- 飲んでいる薬とその服用期間 など

本人のことをよく知る身近な人の付き添いは重要なポイントです



本人が受診を拒むことがあります

認知症は、新しく体験したことを忘れてしまう症状があり、物忘れをしていること自体を自覚していません。家族や周囲の人が「(物忘れが心配だから)病院に行きましょう」と勧めても、「自分はどこもおかしくないから病院に行く必要はない」と頑なに拒むことがあります。

自分ではおかしいと思っていないのに周囲から何度も受診を勧められたり、強引に病院に連れて行かれそうになれば、プライドを傷つけられ、不信感をあおることになり、さらに受診が困難になります。



本人が受診を拒んだ時の対応のポイント

受診を嫌がる方へ受診を勧めるためには、以下の対応が考えられます。



市役所から検診の案内が来ているので受けに行きましょう

私や家族のために…

健康診断に行きましょう

いつまでも元気でいてほしいから…



「市全体の高齢者を対象にした検診」という名目で受診を促したり、人間ドックなど体の調子を話題にしつつ認知症の診察を促します。他の病気の検査も一緒に行うと抵抗も少なくなります。

たとえ認知症であっても、家族への気遣いの気持ちは十分残されています。私や家族のためにも、いつまでも健康でいてほしいという家族の気持ちを正直に伝えるようにしましょう。

このように対応しても、うまくいかない場合もあります。どうしても受診してくれない時は、本人が一番信頼している人や同居以外の家族、かかりつけ医から勧めてもらったり、家族だけで専門医療機関の外来を訪れて相談しましょう。

松山市認知症初期集中支援チーム

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるように、認知症の人やその家族に対して、専門職で構成されたチーム員が訪問し、本人の様子の確認や家族への助言等を行い、必要な医療や介護サービスに結び付けるサポートを行うことを目的としたチームです。

こんなときは
ご相談を

- 認知症の診断を受けたいけれど、受診を拒否しています…
- 認知症の症状が強くて介護に困っています…
- 医療や介護サービスを利用したいけれど拒否されてしまう…

支援チーム員

認知症の専門知識を持つ医療・保健・福祉の専門職（医師、保健師、精神保健福祉士、主任介護支援専門員、社会福祉士など）で構成されています。



まずは地区を担当する地域包括支援センターへご連絡ください(裏表紙を参照)